

第68回環境医学研究所 第59回研究推進委員会合同セミナー

口渇が失われる自己免疫性の疾患



檜山 武史 先生

(鳥取大学 医学部 統合生理学分野
教授
国際乾燥地研究教育機構 (兼任))

生物は体内環境を保つために、水と塩などの体液成分のバランスをコントロールしています。水分が足りない脱水状態では、抗利尿ホルモンが分泌されて尿量が減少するとともに口渇が生じて水を補給しようとしみます。それでは、口渇という感覚は、どのようにして生じるのでしょうか。口渇に関わる脳内機構については、この数年で急速に理解が進みました。

本講演では、我々が見出した、アンジオテンシンIIの情報にもとづいて口渇や塩欲求を制御するニューロン、その制御に関わる神経回路、ナトリウムレベルの上昇を感知し、それを口渇にむすびつける仕組みなどをご紹介しますとともに、口渇や抗利尿ホルモン調節機構が失われる自己免疫疾患について、ご紹介したいと思います。

日時： **2024年12月13日 (金) 18:00~19:00**

Zoom配信併用

会場：順天堂大学医学部附属浦安病院8階
環境医学研究所カンファレンスルーム



(環境研HP)



* 12月12日(木)正午までにお申込ください

参加申込先：kanken@juntendo.ac.jp (大学院医学研究科)

環境医学研究所

共催：順天堂大学大学院医学研究科

